

少ない人数で吹奏楽を楽しむ

釧路市 ドリームーン

ソロやアンサンブルの演奏を楽しむことを目的として釧路市で活動する団体が「ドリームーン」。代表の月見和史さんは、大人数でなければ吹奏楽の演奏を楽しむことができないという固定した考えを排し2000年12月に「ドリームーン」を結成、金管五重奏からスタートした。

「学校のスクールバンドなどでは、何十人というある程度の人数が確保できなければ楽器演奏が続けられないと教わってしまいます。そうではなく、小さな編成でも、あるいは通常出版されている楽譜に書いてある編成とは違う組み合わせでも演奏は楽しめます。1人でも少人数でも続けられることを伝えたい」と結成の動機を語る。

サークルではそこに所属して、固定したメンバーで演奏会などを行う形態をとるが、ドリームーンは、まず企画ありき。その度に一緒に演奏したいという参加者を募って行っている。中心メンバーは20人いるが、このメンバーのほとんどが企画に参加する。

釧路市内の北大通にあるバーBROSのライブで演奏を初披露したのが活動の

はじまり。2002年には、ソロ、アンサンブルの曲を持ち寄って、気の合う仲間同士が気軽に演奏できる場を設けたいと初の自主コンサート「音楽は友だち！！今日は気ままな音友(おとも)立ちコンサート」を開催、中学生も参加するなどして年1～2回、通算8回行われた。

2003年には釧路市で人が最も集まるといいう「くしろ港まつり音楽パレード」に初の社会人バンドとして参加、中高生と一緒に出場し現在も継続して参加している。次の年には、釧路地区マーチング(吹奏楽で動きながら演奏すること)コンテストにゲスト出演するなど様々なイベントで一役買うようになっていった。



釧路地区マーチングコンテストに参加したときの様子

しかし、2007年から2008年の2年間は、活動休止に追い込まれることに。転職や結婚を機に初期メンバーが釧路を離れるなどして、演奏する際の最低限の人数が確保できず活動ができなかったためだ。ただ、それでも活動に共感した人たちが楽器を持ち寄って一緒に参加したことにより、マーチングコンテストのゲスト出演は続けることができた。



釧路みなと祭り「音友だち広場」。小さな子供たちにはドラムや鉄琴など。たたくと音が出る楽器が好評

目指すは親子一緒にのステージ

大きな変化が訪れたのは2009年。この年にずっと空席だったトランペットに原田康平さんが加入したことによって新たなスタートを切ることができた。

「そこから再スタートしたことが今につながっています。原田さんと出会わなかったら今はないんですよ。2年間の活動休止の前と後では全く別のバンドです。コンセプトこそ同じですが、活動している量と質ではすべて違いますね」と月見さんは振り返る。

この年、3年ぶりにアンサンブルコンクールに出場したのを機に、自分達の技量を分かりやすく伝えるため、コンクール出場に力を入れ始めた。次の年の2010年にはアンサンブルコンクールで初めて釧路地区で代表になれたことから、メンバーに自信と活気が生まれイベントにも積極的に参加するようになった。

たまたま、その年にくしろ港まつりの北大通歩行者天国の一区画でイベント提案を持ちかけられ、「音友だち広場(楽器体験コーナー)」を開催。楽器に触れたことのない子供たちやかつて楽器に親しんでいた大人たちに演奏の楽しさを思い出してもらおう企画だ。

「親子で参加した人たちは、お父さんかお母さんのどちらかが楽器演奏の経験者であることがほとんどでした。子供が

興味を持つことをきっかけに、親御さんたちも演奏を再開するようになってもらいたい」(月見さん)

20人ほどの人数が確保できれば、このイベントで指揮者体験や合奏体験コーナーも企画したいという。

この年には「プラス大好き!!」と銘打った連続企画も初開催。毎回違ったテーマを徹底的に追及し、プログラム、演奏、演出も含めて表現する自主コンサート。それまで行っていた「音友だちコンサート」とは全く異なるコンセプトの自主コンサートに切り替えたため、タイトルも一新した。一方、音友だちコンサートの誰もが気軽に参加できる雰囲気忘れず引き継がせるために、港まつりでやっている楽器体験コーナーのタイトルには「音友だち」を使ったという。

クリスマスコンサートではこの楽器体験コーナーを組み入れた演奏会も行っている。いずれは親子だけのステージも実現させたいという。「ほかの地域ではママさんたちの吹奏楽があって、そこではメンバーが連れてきた子供の面倒を順番にみるので、みんな揃って一緒には演奏できないんです。楽器体験で子供たちも演奏に興味をもってもらい、小さな子供たちの面倒を見る工夫をして親子一緒のステージが実現できれば楽しいでしょうね」と月見さん。



自主コンサート「プラス大好き!! 2」のリハーサル風景。このコンサートでは第2幕にTVゲーム「ドラゴンクエスト」の音楽も演奏された

大切なのは“楽しい”を追求すること

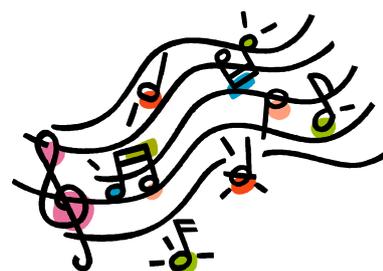
途中2年間ほどの活動休止期間があっても10年以上続けられたのにはどんな秘訣があるのか。「単純に“楽しい”という理由しかありません」月見さんは断言する。

“楽しい”という感じ方は、人それぞれに違うが、メンバー間では自分が楽しいと思うことを追求すること、他人が楽しいと思ったことは尊重することという2つは守るようにしているという。それが会のコンセプトである。

「上手、下手という技術とは別に、思いを伝えたいと心は必ず相手に伝わるんですね。プロの人たちのように曲の素晴らしさを理解してもらえるような演奏まではできないので、楽しさだけでも伝わればと考えています」

ドリームーンという名前は夢＝ドリー
ムと月見さんの月＝ムーンの造語。

「名前を見ると、私の夢になってしま
うのですが、そうではなく私と一緒に見
る夢、色んな思いが実現するようにとい
う願いでつけました」と強調している。
その夢は「楽しい」という気持ちと共に、
地域の活性化につながり、それが確実に
メンバーのものにもなりつつある。



■ 連絡先

〒住所 釧路市南大通 3-1-8

ドリームーン

代表 月見和史

TEL 0154-41-6663

URL

<http://dreamoonkushiro.web.fc2.com/>